

## 論文審査結果報告書

論文提出者氏名：多田 博昭

学位論文題目：The effect of Lactobacillus reuteri probiotics on per-implantitis: a randomized placebo-controlled study

審査委員（主査）教授 中島 啓介



（副査）准教授 岩崎 正則



（副査）教授 鱒見 進一



### 論文審査結果の要旨

インプラント周囲炎はインプラント治療における合併症で最も頻度が高いが、いまだ確定的な治療がないのが現状である。プロバイオティクスは腸内細菌叢のバランスを改善し人体に有益な作用をもたらす微生物のことであり、近年、歯周炎の治療では補助療法として広く用いられている。本研究では、抗菌療法後のメンテナンス療法としてプロバイオティクスを併用する効果を二重盲検プラセボ比較試験にて検討している。

被験者は軽度あるいは中等度のインプラント周囲炎に罹患している30名（男性8名、女性22名）とした。ベースライン時にPocket Probing Depth (PPD), Bleeding on Probing (BOP), modified Gingival Index (mGI), modified Plaque Index (mPI) 等の臨床的測定を行い、さらにPCR-invader法による細菌検査を行った。その後、口腔衛生指導および歯肉縁上スクレーリングを行い、アジスロマイシン500mgを1日1回3日間、服用させた。抗菌療法1週後を0週とし実験群と対照群に対して各々プロバイオティクスあるいはプラセボの摂取を開始させた。その後、4週、12週、24週に臨床的測定、細菌検査を行った。

アジスロマイシン服用後は両群とも総細菌数および歯周病原細菌6菌種の菌数が減少したが、その後は増加する傾向が認められた。また、両群間に統計学的有意差は認められなかった。実験群ではPPDは0週と比較して4週、24週で有意に減少したが、対照群では0週と4週、24週と差がなかった。mGIは24週において実験群は対照群と比較し有意に低値を示した。BOP、mPIは実験群において減少傾向が認められたが、両群間および0週と摂取後との比較で統計学的有意差は認められなかった。

本研究の結果より、プロバイオティクスはインプラント周囲溝の細菌数に影響を及ぼさなかったが、臨床的測定値に改善が認められたためインプラント周囲炎治療の補助療法として有効である可能性が示唆された。インプラント周囲炎治療の補助療法としてのプロバイオティクスの有効性を示唆するため、本研究は临床上、非常に意義深いと考えられる。

公開審査において、主査および副査から申請者の多田博昭氏に対して①臨床的検査値の改善にアジスロマイシンの影響はないか？②臨床的測定を行う測定者のキャリブレーションは行ったか？③サンプルサイズの算出の根拠は？④介入による有害事象の発生は？⑤研究を実施した7施設で同様の患者教育を実施できたか？⑥実験群ではmPIが全く改善しない被験者がいるのでは？等の質問を行った。その結果、これらの質問に対して概ね適切な回答を得たことから、審査委員会では本研究が学位論文として価値あるものと判断した。